

科目名		卒業制作			
担当教員		平原 茂・星野 麻子		実務授業の有無	有
対象学科		建築デザイン科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		1年次に学んだ住宅計画演習・製図・プレゼン技法Ⅰ・建築デザイン実習Ⅰ・建築設計演習Ⅰでの知識を活かして、オリジナルの空間を設計します。実際に参加する競技設計を念頭に置いた課題に対して、自分の思い描く空間をカタチにし、それを他人に伝える為の技術を学びます。課題は期限付きで提示しますので、前期では『期限に間に合わせる』を重点的に評価します。			
学習目標（到達目標）		これまで培ってきた知識と技術を活かし、課題に対する発想力、オリジナルの建物・空間の提案力、他人に伝える為のプレゼンテーション力を習得する。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		初めて学ぶ建築コンペ・卒業設計（学芸出版）			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	『建築コンペ』を理解する ・具体的な課題を提案する為のプロセスの確認 ・課題を分析しコンセプトを検討			まずはコンペのプロセスを確認し、内容とボリューム・流れを確認する。その後、出題された課題に対して、教科書やインターネットを利用して情報を収集する。	
2	課題を分析する ・課題を分析して出題の意図と趣旨の解釈			課題を分析し出題の趣旨を理解する為、教科書やインターネットを使い、課題の背景にある問題を理解し、出題の意図を探る。	
3	方向性を検討して設定する ・条件を整理して計画の方向性を設定			条件を整理して計画内容を決定する為に、設計条件をしっかりと理解し、内容を把握して、設計の方向性を明確にする。	
4	コンセプトを作成する ・方向性の確認とコンセプト・サブタイトルの設定 ・コンセプトと設計方針の発表			計画に対するコンセプトの重要性を認識した後、決定した方向性から、コンセプトを確定させる。更に、コンセプトを明快にするためサブタイトルを付ける。	
5	エスキースを作成する(課題1：提出) ・イメージを形にする ・ひらめきを記録する(思い付きのスケッチ)			確定したコンセプトをもとにエスキースを作成する。思い描くものを形にすることに対しては工夫が必要なので、まずは思い付いたものをスケッチしてみる。	
6	コンテンツを作成する ・エスキースを基に図面やパースの作成			エスキースから各種図面やパースを作成する。ここでは、何を伝えるためのコンテンツなのかを明確にしておく。コンセプトに沿ったコンテンツを作成することが大切である。	
7	プレゼンボードを作成する(課題2：提出) ・タイトル・コンセプト・コンテンツ等をレイアウトする			作成したコンテンツをレイアウトし、プレゼンボードを作成する。全体の雰囲気や文字の効果などにも配慮して、見やすさ、分かりやすさを意識したレイアウトを心掛ける。	
8	プレゼンテーション(課題3：提出・実施) ・プレゼンテーションを行うための資料作成 ・プレゼンテーション実施			プレゼンテーションを行う為に、プレゼン資料を作成し、実際の発表を想定してプレゼンテーションの構成を決める。他人を惹きつける魅力のあるプレゼンテーションを行う。	
9				※提出課題は完成したもののみ受け付けます。完成させる為に何回かフィードバックが必要です。各自計画を立てて、何回もフィードバックを重ねたものを提出してください。	
10				※課題の仮提出やチェックの回数が決まっています。それらを怠って本提出や最終チェックには至りませんので注意してください。	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題1 20 %	課題2 20 %	課題3 50 %	取組姿勢 10 %	後期に実施される卒業制作に向けて、競技設計の流れと内容をしっかりと把握しましょう。自分は何にどれほどの時間を要するのか、知識や技術はどれほど習得できているのかなど、しっかりと把握して進めましょう。進め方には個人差があります。『自分』をしっかりと認識する必要があります。また、仕事において提出期限は必須です。完成物を提出出来ているか、厳しく評価します。	
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		平原先生：建築設計事務所19年勤務、建設会社設計部7年勤務を経て現在個人事務所 実務合計46年 星野：住宅設計に11年間従事			